

# 保育規制緩和と命守れない

## 相次ぐ事故 大阪市長に抗議

### 集会実行委

### 裁判原告ら

### 大阪府・市の認可外



記者会見し、大阪市のさらなる保育施設の規制緩和に抗議する参加者。24日、大阪市役所

保育施設・事業で乳幼児の死亡事故が相次いだのを受け、子どもの命を考える集会実行委員会とラッコランド裁判元原告、八尾ファミリースUPPORTセンター重篤事故裁判原告らは24日、大阪市の吉村洋文市長に、さらなる保育施設の規制緩和に抗議し、二度と事故を起こさないための要望書を提出し、記者会見しました。

見直しや重篤事故検証委員会に発達心理の専門家、弁護士、保育士、小児科医を入れること、待機児童解消に係る国家戦略特区申請の取り下げなどを求めています。

認可外保育施設で当時4カ月の子息を失った棚橋恵美さん(28)は「不幸な事故を未然に防ぐためにどういう保育、環境が良いのか真剣に考えてほしいのです。これ以上の規制緩和は絶対にしては

けない」と訴えました。娘(5カ月)が大阪府八尾市のファミリースUPPORTセンターで心肺停止となり、脳死状態で3年後に死亡した藤井真希さん(36)は「待機児童は解消してほしいが、やり方が違う。子どもが命をなくすような保育、預かり事業は本末転倒だ」と話しました。

平沼博将大阪電気通信大学准教授は「子どもの命がどうなってもいいからあずかってもらえる施設がほしいとは思っていない。規制緩和では事故はなくならないし、子どもの命は守れない」と述べました。